

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100610		
法人名	特定医療法人 浩洋会		
事業所名	グループホーム ゆりかもめ	ユニット名	かもめユニット
所在地	東臼杵郡門川町東栄町4丁目5-14		
自己評価作成日	令和2年12月28日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaiogkensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和3年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体である田中病院と協力・連携し、常にご利用者様を中心に考え対応しています。24時間対応可能な体制が出来ている為、ご家族様にも安心していただいています。その他、ゆりかもめから毎月発送している郵便物の中に、ご利用者様の近況を伝えるお手紙や職員が交代で作成している「ゆりかもめ便り」に毎月の行事や誕生会の写真を掲載、同封しお送りしています。今年度はコロナの為、行事の殆どが出来ず、ご利用者様のリハビリも中止となった為ケアプランに沿った運動実施の為の声掛けや残存機能維持の為の声掛けを行い支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の病院に隣接するグループホームであり、災害対策や医療支援対策の構築に取り組んでいる。ホームの理念である「同じ目線、同じ気持ちを忘れずに」を共有し、日々の支援に取り組んでいる。また地元自治会との交流や高校生の実習を受け入れるなど地域密着型サービスに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	かもめ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆりかもめの理念や玄関に掲げている目標を踏まえ「利用者様の立つ場に立つ」という事を常に心掛けている	玄関にホームの理念と介護目標を掲げている。「同じ目線、同じ気持ちを忘れずに」を全職員で共有し日々の支援に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様のADL低下や新型コロナの感染予防の為、外出・面会も難しくなった。	自治会に交流会の案内を配布し参加が得られるように努めている。地元高校生の実習の受け入れるなど地域交流に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所からの働きかけは積極的に行っていないが、会議等を通じて職員の対応や介助法などを報告している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前は2ヶ月に一度運営推進会議を行い、意見が出た場合にはサービスの向上に活かすよう努力をしていたが、現在コロナの為会議を実施していない。	会議では報告と共に、意見や提案があり、自治会の回覧板を利用して行事案内をするなどの提案をサービス向上に生かすよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を取り、解決にめけての協力関係を築くよう努めている。	会議には町役場担当者の出席があり、ホームの実情や取組を報告している。また、状況変化や問題点などを相談し、協力関係が築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	啓示事項は理解しているが、利用者様の状況に応じて玄関等の施錠にて対応する場合がある。	管理者がデスクワーク時には玄関を開錠できるが、マンパワー不足もあり、外出願望の強い利用者への対応は困難でやむなく施錠している。	管理者や職員は身体拘束の弊害を十分理解しているが、施錠しなくても済むような就労環境の改善に期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は減ったが、虐待については、全職員目配り注意している。			

自己	外部	項目	自己評価	かもめ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	かもめユニットには、制度を利用されている方はいない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、説明は行っているが、その後の経過で家族より希望が出ることもあり、その都度対応を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けているが、意見を言われる方がほとんどである。その際には解決に向け努めている。		利用者や家族の意見や要望を運営に反映できるよう声掛けを行い、出された意見や要望を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナの感染予防の為会議を行う機会は減ってきている為、職員の意見を言う事が少なく、通らない事もある。		カンファレンス時に出された意見や要望を管理者は母体である病院に伝えているが職員の意見の反映に至っていない。	代表者も職員の意見を聞く機会を設け、意見を反映させるような取組に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面等でやや欠ける部分はあるが、他はほぼ整備されてきている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今はコロナで研修等に参加出来なくなっている。トレーニングはいつも心に置き行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響により勉強会等を開くことができないが、職員間で質の向上に向け取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	かもめ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人・家族との面談等により情報の収集と職員間での共有を図り、出来る限り安心した生活が出来る様関係作り に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望があれば、その都度話を聞き、対応に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族に対する支援を見極め、多方面からの情報も交え対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レク・ゲーム・掃除等を一緒に行い、話を聞いたりする事で築けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今は、コロナの為面会もままならない状態だが、手紙や電話等でのいい関係を築けている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響により、外出・面会も制限しているが、昔の話をすることで、思い出話などの引き出しを行っている。	誕生会を兼ねての外出や馴染みの方との面会の支援に努めている。現在直接面会は出来ていないが、玄関のガラス越しの面会を実施し、関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昔話や他者との会話の橋渡し、レク・手伝い等を通し関りを支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	かもめ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族等の相談があれば、相談内容に応じ関係性を大事にしながら、支援している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに希望や要望を聞いて、意向の把握に努めている。	会話のできる利用者には思いや意向を聞き、会話が困難な利用者には歩き方やしぐさや様子から判断し対応するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・御家族にお聞きした生活歴や情報を参考に一人ひとりの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕に申し送りを行い入居の状態や変化の把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の気付きや、本人・家族との話し合いを基に介護計画を作成している。	モニタリングは担当職員が月に1回行っている。家族に意見をもらえるよう前月に介護計画の更新を手紙で伝え、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録や職員間での意見を参考にし、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の要望に対し、柔軟な対応の実践に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	かもめ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は家族や民生委員・ボランティア等を依頼していたが、現在コロナ感染予防の為地域資源の活用を行っていない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医と相談しながら支援を行っている。	母体病院がかかりつけ医療機関となっており、適切な医療を受けられるよう支援している。他科受診は家族が対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐する看護師に、日常の気づきを伝え適切な看護を受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関しては、日頃から病院関係者と情報交換や相談に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族へ、重度化や終末期におけるゆりかもめで出来る事を説明し納得頂いている。	入居時に重要事項説明書で看取り指針や要望についての説明をして同意を得ている。変更は可能と伝え方針を共有し、ケアに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時には、看護師の指示を受け対応できている。また、心肺蘇生術や応急手当等の院内研修を全職員が参加している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の避難訓練を定期的実践し、その都度違う役割分担で行っており、全職員が避難方法を把握している。	母体病院と共に、夜間や津波を想定しての災害訓練が行なわれている。定期的な訓練と共に協力体制の構築に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	かもめ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に対して、プライバシーに配慮した声掛けが、出来ていない時もあり注意していきたい。		利用者の生活歴などにも考慮し、周りや場所に配慮しながら誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望には出来るだけ寄り添い、自己決定が出来る様に対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ希望に沿って支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに対し、自己決定が出来ない方は職員が支援している。また散髪も定期的に実施している。(現在はコロナで実施出来ず)			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週メニューを決め、栄養が偏らないように工夫し、好みの物を聞きメニュー作成を行っている。		利用者の好みを聞き個々に合わせ支援している。誕生日や行事食にも希望を取り入れ、時には園庭での野菜を利用するなど食事が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を把握し、栄養バランスや水分量を考えながら支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け・促しにて実践している。他、家族対応にて歯科受診に行かれている方もいる。			

自己	外部	項目	自己評価	かもめ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、パターンを把握し対応が出来る。又、訴え時にはトイレ誘導を行っている。	排せつチェック表を利用し、パターンの把握に努めるなどトイレでの排せつ支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時には処方されている下剤や、牛乳の摂取、運動や排泄時の腹部マッサージを行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おひとりお一人が入浴を楽しめるような十分な支援が出来るかの反省課題はあるものの、入浴実施表を基に偏りが無いようバランスを考え支援している。	入浴を拒む場合は、無理強いせず、言葉かけに配慮するなど個々に合わせ支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないように、午睡の時間は1時間程度を基本としつつも、その時々状況に応じて、本人が自由に休息されている。シーツ交換や居室の掃除も適宜行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に看護師が主治医・薬剤師より説明を受け、その旨職員も申し送りを受けている。下剤や頓服薬等はその時々症状に応じ調整と服薬を行い、日々の状態も含め看護師と情報を共有している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の生活歴を学び、持たれている能力を発揮して頂けるような作業や役割、本人の好きな事が出来る様支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為外出制限があり、玄関先や庭先での気分転換を心がけている。	気候の良い時期は外気浴やドライブなど外出支援に取り組んでいる。家族の協力も得て利用者の希望に沿うよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	かもめ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染予防の為、本人の希望時や必要時には、ご家族と職員で支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、本人様書いた手紙を職員がポストに出したり、本人様自ら電話を掛けたり、家族とのつながりを保てるよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場を毎日掃除する事で、清潔が保て、置物や成果を飾るなどして季節感を取り入れている。	季節を感じる装飾や、利用者の作品を飾り、利用者がゆっくりと過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方とのコミュニケーションが保てるような席の配置や空間づくりに努めている。各自が自由に動く事が出来ている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活歴を尊重し、本人の馴染み深い物を、今でも使用されている。趣味も継続出来ているよう好みの道具も持参されている。	テレビや利用者の使い慣れたタンスなどを持ち込み、配置している。作品や家族の写真を飾り、利用者本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全性を考慮し、場合によっては一部介助と常に見守り・注意を欠かさない様にし、残存能力を活かし自宅でもされていたような事も継続できる様に支援している。			